

事故は5段階に分けて評価し対応策を変えると効果的

—事故の評価は損害の大小ではなく質で評価する—

■ 防ぐべき事故への対策を怠っていないか？

損害の大きな事故が起こると、“現場の大きな失態である”と考える管理者がいます。もちろん、死亡事故のような事故は、家族対応も大変ですから管理者にとっては重大事です。しかし、こと事故の評価においては、損害の大きさはそれほど重要なことではありません。もちろん、損害が拡大しないよう損害軽減策を考えることは必要ですが、損害の大きさは事故防止対策ではコントロールしにくいのです。転倒した時に足をぶつけるのか、頭部を強打するのかがコントロールが極めて難しいのです。

事故は損害の大きさではなく、その質によって5段階で評価して、対応策を変えると効果的です。

5段階評価を現場の事故防止活動に取り入れよう

■ 防ぐべき事故と防げない事故の区分

まず、事故を防ぐべき事故と防げない事故に区分し、防ぐべき事故に対して的確な事故防止対策を講じられるようにします。更に事故をその質によって評価し、対応策を5つに分けます。

防げない事故
過失のない事故

レベル5 ▶

どんな対策を講じても防げない事故

レベル4 ▶

専門知識・技術がないと防げない事故

防ぐべき事故
過失のある事故

レベル3 ▶

基本的な防止対策で防げる事故

レベル2 ▶

ミスが原因で発生する事故

レベル1 ▶

ルール違反で発生する事故

■ 対応策も5段階に分ける

事故の評価によって対応策が異なりますので、下記の表に従って対応策のポイントを明確にして、それぞれ具体的な対応策を講じます。防げない事故を家族に受け入れてもらう取組は特に重要です。

	事故の質による評価	対応策のポイント
5	どんな対策を講じても防げない事故	<ul style="list-style-type: none"> ■事故が起きててもケガをしない対策(損害軽減策) ■家族にリスクを受け入れてもらう取組
4	専門知識・技術がないと防げない事故	<ul style="list-style-type: none"> ■多職種の連携によって専門知識・技術を共有する ■資格取得や研修によって専門知識の習得を促す
3	基本的な防止対策で防げる事故	<ul style="list-style-type: none"> ■危険箇所点検などの危険発見活動を行う ■標準的な事故防止対策をマニュアル化する
2	ミスが原因で起きる事故	<ul style="list-style-type: none"> ■介助ミスの原因となる介助方法のリスクを改善する ■ミスの原因となる環境要因を改善する
1	ルール違反で起きる事故	<ul style="list-style-type: none"> ■やってはいけない危険な介助方法を文書化する ■ルール違反による事故の罰則を周知徹底する

発行責任者

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
マーケット開発部 市場開発室
担当 堀江・高橋 TEL 03-5789-6456

担当課・支社 代理店

株式会社福祉施設共済会
東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSTビル
電話03-5466-0881 FAX03-5466-0882